

ウェスタンオレゴン大学との友好協定締結

小林和子^{*}，川久保守^{**}，佐藤孝紀^{*}

目 次

- 1 . はじめに
- 2 . オレゴン州について
 - 1 富山県との交流状況
 - 2 歴史
 - 3 地勢・自然・気候
 - 4 産業・社会
- 3 . ウェスタンオレゴン大学の歴史と環境
 - 1 歴史
 - 2 州の公立大学システムとウェスタンオレゴン大学
 - 3 環境
- 4 . ウェスタンオレゴン大学の教育の特色
 - 1 学部構成と教育プログラム
 - 2 キャンパス・施設・設備
 - 3 学生生活
- 5 . 友好協定に基づく交流計画
 - 1 英語研修プログラム
 - 2 学生の交換
 - 3 教職員の交換
- 6 . おわりに

^{*} 高岡短期大学地域ビジネス学科

^{**} 高岡短期大学事業課

1. はじめに

高岡短期大学は、アメリカ合衆国オレゴン州の州立大学の一つウェスタンオレゴン大学 (Western Oregon University, 以下WOU) との間に大学間友好協定を締結し、2003年度から教育・研究交流プログラムの実施をスタートさせることとなった。

本学は現在、海外の二つの教育機関 (中国遼寧省の大連外国語学院およびフィンランドのラハティ・ポリテクニク) との間に、友好協定に基づく交流プログラム¹⁾を実施している。今回のWOUとの新たな友好協定関係により、本学の教育・研究の国際的ネットワークをさらに充実させ、英語圏の大学での交換留学や語学研修の機会を強く希望する学生の要望にも応えることができるようになった。新たな一歩である。

本稿では、WOUとの友好協定の背景、富山県とオレゴン州の友好提携による交流、WOUの歴史と地理的、文化的環境、WOUの教育の特色、友好協定に基づく交流計画の概要を紹介し、学内外の人々と新たなパートナーに対する理解を分かち合いたい。

友好協定校の選定に先立ち、佐藤孝紀、小林和子、川久保守の3名が2002年3月下旬、オレゴン州においてWOUを含む計3校の大学・カレッジの実地調査を行った²⁾。富山県国際・日本海政策課の本郷優子氏にはオレゴン州高等教育担当者、各機関の訪問受け入れ担当者の紹介の労をとって頂くなど、大変お世話になった。またいちいちお名前はあげないが、我々の訪問に対して、入念な準備と長時間の対応をして下さった訪問機関の関係者の皆様にも感謝の意を表したい。

2. オレゴン州について

2.1 富山県との交流状況

富山県とオレゴン州との交流は1989年の知事を団長とする「富山県青年・女性海外派遣団」による訪問・ホームステイに始まるという。その後県内でのオレゴン・フェアの開催、県からの日本語教師の派遣及び州教育研究者の受け入れ、県職員の派遣及び州政府職員の受け入れなどの交流実績を経て、1991年富山県とオレゴン州との間に友好協定が締結された。

友好協定の締結以降、「青年・女性の翼」の派遣、高校生バスバンドの派遣、ジャズバンドの受け入れ、日本語スピーチコンテストの開催などの文化交流のほか、県教員の日本語教師としての派遣 (文部科学省のREX計画による)、オレゴン州教育制度研究者の受け入れ、オレゴン州派遣教育実習生の受け入れ、県職員の研修派遣、州職員の研修受け入れなどの人物交流が毎年継続されている。これらの派遣プログラムは、単なる一過性の交流ではない。専門家の育成・研修という明確な意図のもとに実施されていることは明らかである。

また、市町村レベルでは入善町がオレゴン州のフォレストグローブ市と姉妹都市協定を結んでおり、中・高生派遣事業、姉妹都市使節団受け入れ事業を行っているほか、各種団体、民間企業の交流も活発に行われている。

2.2 歴史

北米先住民族がオレゴンに定住した後の16世紀ごろ、この地は初めて白人の目に触れ、以降、現在のワシントン州、アイダホ州、カナダのブリティッシュ・コロンビア州を含む大陸北西部一帯が「オレゴンテリトリー」と呼ばれていた。1803年、当時のジェファソン大統領がルイジア

ナをフランスから購入してから西部開拓の幕開けとなり、新天地での暮らしを夢見て、人々は「オレゴントレイル」³を通してオレゴンに移住し始めた。長い過酷な旅を経てオレゴンにたどり着いた開拓民には無償で豊穡な土地が与えられたところから、オレゴンは「西のエデン」と呼ばれさらに多くの人々が移住した。1840年から1860年にかけて当時のアメリカの人口分布図を塗り替えるほどの移住があったという。

オレゴンは1859年、アメリカ合衆国の33番目の州となった。1870年代の大陸横断鉄道の開通とともに、林業、農業、漁業などの産業が発達した。

2.3 地勢・自然・気候

アメリカ合衆国の太平洋岸の北西部に位置し、北をワシントン州、南をカリフォルニア州、東をアイダホ州、ネバダ州と接している。東側一帯にはコロンビア台地が広がり、中央部西よりにはカスケード山脈が縦走している。また、海岸地帯北部の東側には平坦な広い農地が広がっており、南部は低い山々とそれに囲まれる盆地、そしてゆるやかな丘陵が連なっている。コロンビア渓谷、クレータ・レイク国立公園、マウント・フッド山（標高3,424m）などが観光地としても有名である。海⁴、山、森林、砂漠、砂丘など多彩な手つかずの自然⁵に恵まれており、アウトドア・スポーツを楽しむ人々が内外から集まる。

気候は温和、四季の変化も豊かで、雪も少なく、ハリケーン、地震等の災害もほとんどない。カスケード山脈の西側では秋から冬にかけて雨が多く、夏場は暑くとも27 くらいだが、湿度が低いので快適である。冬でも氷点下になることはほとんどない。山脈の東側では、山脈が雨雲をブロックするため空気が乾燥し、年間300日間も晴天となる。

2.4 産業・社会

オレゴン州の経済は、主に林業、農業、漁業、観光、そしてハイテク産業によって支えられている。特に、ハイテク産業は近年林業を抜いて州内最大の産業となっており、緑豊かな土地を反映して「シリコンフォレスト」とも呼ばれている。また、豊富な鉱物、エネルギー資源により、アルミニウムをはじめとする金属加工業も盛んである。

オレゴン州の面積は248,630 km²（富山県の約59倍）、人口は3,421,399人（富山県の約3倍）である。人口密度は1 km²当たり13.8人である（全米平均30.7人、富山県265人）。

人口は増加傾向にあり、2000 - 2001年で1.5%、1990 - 2000年の10年間で20.4%の増加率である。州最大の都市ポートランドはこの数年さまざまな雑誌などの調査で、「住みたい都市」全米第1位にあげられることが多いという。豊かな自然、快適な都市性、比較的良好な治安、新鮮なシーフード、全米有数の生産量を誇る野菜や果物などの食材、地ビール・地ワインなどが「暮らしやすい都市」というイメージを与えている。

人種・民族構成は、白人88.9%、ヒスパニック系5.5%、アジア・太平洋諸島系2.9%、アフリカ系1.5%、ネイティブアメリカン1.2%となっている。白人の比率は、全米平均（75.1%）よりはるかに高い。

3 ウェスタンオレゴン大学の歴史と環境

3.1 歴史

WOUはオレゴン州最古の大学を母体としている。WOUの歴史をたどることは、アメリカ合衆国の高等教育の歴史、あるいはアメリカ社会の歴史をたどることにもなる。小さな私立大学として出発し、師範学校として公立部門に参入し、ほぼ100年にわたり教員養成機関としての堅実な評判を不動のものとし、そして現在の魅力的なりベラルアーツ型の大学に成長するまでの道のりは大変興味深い。



(写真1)

< 1856年 >

学生数ごくわずかの「モマス大学」が創立される。オレゴンの開拓民の自助によるものであった。これがWOUの起源である。オレゴンがアメリカ合衆国の州になる前のことである。キャンパス入口の記念碑には“ Western Oregon University Founded 1856 ”と創立年度が記されている(写真1)。

< 1865年 >

近隣の宗派系カレッジと統合し、「クリスチャン・カレッジ」となる。初代学長を選出。

< 1883年 >

公立化が州議会で認められ、オレゴン州立師範学校になる。

< 1911年 >

オレゴン師範学校と名称変更。学生数138人。

< 1939年 >

オレゴン教育カレッジとなり、高等教育機関としての社会的認知が定着。1920年代に学生数は3倍以上に増加した。教育研究部学科が新設される。これ以降、学生数は第2次世界大戦中の減少期(全米に共通の傾向)を除き、一貫して増加する。この期間、教員養成機関としてゆるぎない評価が定着する。

< 1981年 >

リベラルアーツ分野の充実に対応し、ウェスタン州立カレッジと名称変更。

< 1997年 >

学生の規模、教育課程の質・範囲、教員の質などの評価により、カレッジから大学に昇格。現在のWOUの名前の始まりである。これ以降、現在までの学生数の増加は著しく、1997年の4,000人から、現在はほぼ5,000人の規模に拡大した。

3.2 州の公立大学システムとウェスタンオレゴン大学

アメリカ合衆国の高等教育システムは、州により異なり、一様ではない。オレゴン州の高等教育システムはかなり州中央集権的なシステムである。特に州立大学は一元的な運営機構の中におかれている。この運営機構は1932年に組織され、Oregon University System(以下OUS)と称される。現在はWOUを含む以下の8大学、①Eastern Oregon University、②Oregon Institute of Technology、③Oregon State University④Portland State University、⑤Southern Oregon University、⑥University of

Oregon, ⑦Western Oregon University, ⑧Oregon Health and Sciences Universityによって構成されている。OUSは単なる大学の連合組織ではなく、州知事が任命し、州議会が承認した委員長と11名の州高等教育委員によって運営される。OUSの主な役割は、州の高等教育政策の立案、高等教育計画の実施、予算の決定・配分、教育情報の収集・分析・提供などである。

OUSとそれを構成する大学との関係は永続的なものではない。例えば、⑧のOregon Health and Sciences Universityは、1974年OUSの中に入ったが、1995年に独立法人の地位を得、OUSとはゆるやかな提携関係（affiliated）に入った。その理由は、数多くの病院・クリニックをもつこの大学にとって、医療関連規則（あるいはその改革）と州の教育関連規制との調整が困難になってきたためであると言われている。州立大学の独立法人化は、近年、メリーランド、ニューハンプシャー、ジョージア、メインなどいくつかの州においても実施されており、州立大学の運営形態の新しいあり方として注目を集めている。

3.3 環境

オレゴン州はそれぞれ異なる特徴をもつ7つの地域に分けられるが、州内最大都市ポートランドとその近郊からなるポートランド地域の南にウイラメットバレーと呼ばれる地域がある。この名は州北西部を流れるウイラメット川（Willamette River、全長480km）にちなむ。果物、ナッツ、花、ワインの産地として名高い。

WOUのある町モマス（Monmouth）はウイラメットバレーのちょうど中央に位置し、州都セーラム（Salem）の約20km南西にある。モマスの人口は7,000人ほど。緑豊かな果樹園に連なるのどかな町であり、オレゴンで最も小さい大学町である。WOUの157エーカー（約19万坪）にも及び美しく広大なキャンパスはモマスの町とほとんど一体化しており、学生は町のただ一軒の銀行

（写真2）や郵便局のお世話になる。

しかしながら、WOUの魅力は、静かで安全な学習・生活環境にのみあるのではない。モマスの町は州都セーラムにもごく近く、またポートランドとは、車で2時間の距離である。演劇、バレエ、コンサート、博物館・美術館の催しなど、さまざまな都市型文化を享受できる地理的条件にあることも付け加えるべきであろう。



（写真2）

4. ウェスタンオレゴン大学の教育の特色

4.1 学部構成と教育プログラム

WOUはオレゴン州の公立8大学の中では、小・中規模校である。学部構成は教育学部（College of Education）と文理学部（College of Liberal Arts and Sciences）の2学部から成る。

教育学部には、学校教育、保健体育、特殊教育の3学科がある。就学前からハイスクールまでの教員養成のほか、保健・体育教育の専門家、リハビリカウンセラー、社会的矯正施設の専門家、



(写真3)

手話通訳者などの養成も行っている。教員養成の長い伝統と高い評価があり、教育学部への入学はかなりの競争であるという。

文理学部(写真3)には、ビジネス・経済、コンピュータ科学、芸術、人文、自然科学・数学、心理学、社会科学の7学科がある。

WOUの教育の特色は、質の高い幅広い学部教育にある。少人数教育(平均クラス規模: 27人)と学生対教員比率(15:1)

という条件は大規模校にはなかなかみられない利点である。学士号は、文学士、理学士、音楽学士の3種類を授与する。現在40の学士課程プログラムが用意されている。修士課程は3プログラム、いずれも教育学の分野である。

WOUの学部教育で強調されている点は、バランスのとれた基礎教育である。全学生必修のリベラルアーツ・コア・カリキュラム⁶が設定されており、卒業所要単位180単位のうち55単位がこれらにあてられている。また、専門分野のライティング、数学、コンピュータのスキル向上も重要視されており、学士号の種類や専攻により若干の差はあるが、18~24単位取得しなければならない。主専攻は45~120単位、副専攻は15~33単位、その他は選択科目である。

WOUのユニークな教育機能として注目されているのがキャンパス内にある公共サービスパークである。現在このパークには「オレゴン警察アカデミー」と「オレゴン軍事アカデミー」の2校が置かれている。WOUは、州政府の委嘱を受け、これらのアカデミーの在学者に対する教育プログラムの提供も行っている。キャンパスを歩いていると訓練帰りの(未来の)警察官や軍人の姿をたびたび目にする。キャンパスの治安維持にとっても大いに助けとなるのではないだろうか。

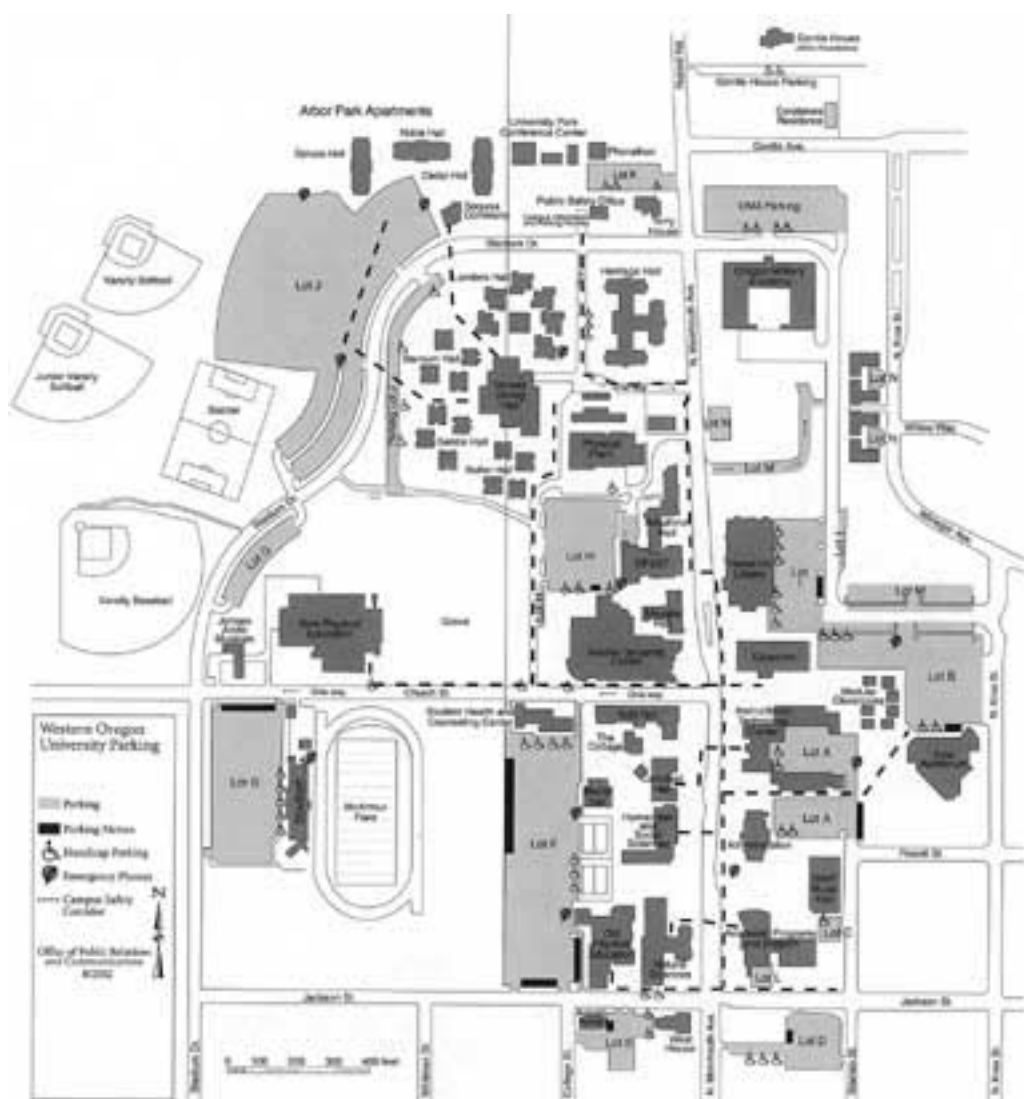
4.2 キャンパス・施設・設備



WOUの敷地は157エーカー(約19万坪)にもわたり、新旧34の建物が点在する。その全貌は、図1に示されておりである。WOUのキャンパスはこれまでに3度「全米の美しいキャンパス」に入賞している。

キャンパス内の有名なジャイアント・セコイア(写真4)は1887年の卒業生が植樹したものである。このセコイアは12月にはクリスマスツリーとして飾り付けられる。12月の第1週目に行われる点灯式には合唱隊によるキャロルや学長のクリスマスの挨拶、サンタクロースの出現、などさまざまな行事が行われ、これらの行事には近隣の住民も多数参加するという。

(写真4)



Campbell Hall (写真5), Todd Hall (写真6) はWOUのなかでも最も歴史の古い建物である。大学の中核部となっている。前者はアートギャラリーで、学生の作品展、プロの作家たちの作品展などに使われる。後者は同窓会などのさまざまな会合や催しの会場となる。いずれも19世紀後半の建造であるが、十分な修復が施され、大学本部(写真7)とともにモマスの町の「歴史的建造物」の指定も受けている。



(写真5)



(写真6)



(写真7)



(写真8)

劇場ホール(写真8)は座席数620を有し 卒業式、定期的に行われるコンサート、バレー、演劇などの会場となる。図書館(写真9及び写真10)は2000年に完成したWOUで最も新しい建物である。20万冊以上の蔵書のほか、オンラインサービスも充実しており、州内21の公私立大学とコンソーシアム関係を結んでいる。グループ学習室、個人学習室、会議室、コンピュータ室も完備している。

(写真9)



(写真10)





(写真 11)

キャンパス中央部にある 2 階建ての大学センター（写真 11、写真 12、写真 13）には、広々としたラウンジ、ギャラリー、食堂、売店、書店、カフェ、アイスクリームパー、学生の集会場、レクリエーション室があり、大学というコミュニティのメンバーの「集いの場」であり、また「情報発信の場」となっている。



(写真 12)



(写真 13)

スポーツ・競技施設も大変充実している。サッカー、野球、ソフトボール（2 面）それぞれの専用競技場があり、陸上競技場は世界レベルの大会にも対応できるという。2,000 人の観客席を備えた屋内体育館は、テニスコート、ハンドボールコート、プールも含んでいる。WOU の競技チームのシンボルイメージは狼（Wolves）である。Tシャツ、文房具などさまざまなものに描かれているが、構内の思いがけない所で狼の「足跡」（写真 14）に出くわした。



(写真 14)

4.3 学生たち

WOUの学生総数5,000人のうち、フルタイムの学生が85%以上を占め、女子学生の比率は約60%である。学部教育中心の大学ということもあって、学生の年齢層も若い。ハイスクール卒業1年未満の新入生は最低1年の学寮生活を義務づけられている。勉学以外の共同生活を通じて互いに学び、交流することもWOUの教育の重要な要素なのである。

クラブ活動はWOUではCo-curricular Activities⁷と呼ばれ、奨励されている。クラブ組織の数は60を超え、それらの分野も、学習目的のクラブ、異文化紹介・理解のためのクラブ、音楽・演劇・ダンスなどのパフォーミングアート系クラブ、社会・政治問題研究系クラブ、宗教研究系クラブ、スポーツ・競技系クラブ、メディア系クラブなど多彩である。メディア系クラブには週刊の学生新聞を発行するクラブ、季刊の文芸誌の編集・発行クラブのほか、大学専用のTV番組制作クラブもある。

5 友好協定に基づく交流計画

WOUと高岡短期大学は2002年度に友好協定を締結するに至った。この協定については、今後さまざまな交流を展開できるよう包括的な学術交流協定（General Agreement）とし、早期に実現可能な交流プログラムから順次スタートさせることとなった。個別のプログラムについての合意事項はそれぞれの「覚書」（Memorandum）に盛り込まれている。

協定はこれ以外にも将来新たな交流プログラムの設定の余地を残しているが、現段階で早期に実施に移したい3つの交流プログラムを以下のとおりに選定し、それぞれ「覚書」を交わしたところである。

5.1 英語研修プログラム

本学の学生を対象とする夏季英語研修プログラムである。WOUのESL（外国語としての英語）教育専門スタッフによる3～4週間の研修であり、参加学生はWOUの学寮と近隣の一般家庭でのホームステイと2通りの暮らしを体験する。また週末は、さまざまな自然・文化体験も用意されている。本学の学生の中には、中学あるいは高校時代に短期語学研修やホームステイプログラムへの参加者も少なくない。これらの学生は、本学入学後さらに充実した海外語学研修の機会を求めることが多い。WOUでの英語研修の実施により、このような教育需要に応えることが可能となるだろう。第1回は2003年8月下旬から実施される。

WOUは日本の大学の委嘱による英語研修プログラムの提供にも十分な経験があり、また大学ごとの要望（目的、対象学生の英語力、教育内容・方法など）にも柔軟に対応している。本学の英語教育との連携・調和を図りながらこの英語研修プログラムを進めたい。

5.2 学生の交換プログラム

WOUと本学の交換留学制度である。相互に受け入れ可能な留学生を1名に限り、留学期間は1年間としている。入学料や授業料は互いに徴収しない。在学期間中に1年程度の留学経験を得たいと望む学生にその機会を提供できることとなった。

5.3 教職員の交換プログラム

教員及び職員の相互派遣制度である。大学の国際化の進展，大学の地域貢献のさらなる拡大，大学の教育・研究の革新は，現下の大学の重要課題である。国立大学の法人化，再編統合を控え，新しい時代の新しい大学のあり方が問われている。大学の力とは，大学の構成メンバーの力を結集させたものにほかならない。教員の教育・研究能力と同様，職員の専門性の向上もこれからの大学にとって重視しなければならない。大学職員の派遣も可能な枠組みとした所以である。受け入れ期間は1年以内である。

6. おわりに

大学間友好協定の締結にいたる経過は，所属する教員の研究，教育に係る個人レベルから端を発し，学部レベル，そして大学間という段階を追うことが多い。

しかし，今回のWOUと本学の友好協定締結は，このような経過に拠らず，本学が常々指向している大学の教育研究の質の向上を図るための行動の一環として，ゼロから独自の調査と交渉により実現をめざしたものである。幸いにも，WOUとの友好協定の締結にたどりつけたことの大きな要因は，富山県からの事前の協力が得られたこと，仲立ちの労をとって頂けたオレゴン州当局，さらに調査，交渉した大学WOUから大変好意的，積極的な対応が得られたことである。

大学が新たな大学間友好協定校を求める際に，その大学と相手方との間にまったく交流関係がなかったとしても，協定を模索する大学が，自治体等との間に十分な連携があれば，その自治体が蓄積してきた国際交流の実績や，すでに確立している協定関係などがきわめて大きな原動力となることが実証された。

地域との連携は本学の開学からの大きな柱の一つであり 国際交流においても 地域と大学がそれぞれの交流実績・経験を積み上げるなかで 情報を共有しつつさらに充実したものにしていきたい。



(写真 15)

WOUは規模こそ大きくないが，幅広い国際経験を十分蓄積している大学であり，専任の部門(International Education and Services)の責任者Ms Kelly Millsとそのスタッフ(写真 15)を中心に，WOUの国際関係⁸をさらに充実させている大学である。またWOUはその長い歴史の中で，常にさらに強い大学を目指し，幾多の変革を行ってきた。今後このような大学とさまざまな形の交流を推進していくことにより，本学が学ぶことは大きいと信じている。

注釈

* 1 大連外国語学院では1997年以降，本学学生の海外研修（同学院の講師陣による語学研修のほか大連や北京での実地研修も含め約3週間）が実施されている。当初は中国語コースの学生のみの参加であったが，現在は，学科・コースを問わず参加可能となっており，参加学生も増加している。ラハティ・ポリテクニクとは1998年から学生の相互受け入れを行っている。また学生の作品交流展

示も重要な交流項目で、1998年にはラハティ・ポリテクニクのデザイン学部学生の作品展が本学で、2002年には本学学生の作品展がラハティ市で行われている。

- * 2 実地調査校は、オレゴン州の4年制州立大学（8校）及び公立短期大学（17校）を検討して選定した（私立大学は最初から調査対象としなかった）。実地調査校の選定にあたっては、相互の派遣、受入や語学研修の実施を想定して、①本学と関連ある学科、課程等が開講されているか、②適切な規模か、③ESL（外国人に対する英語）教育の実績が十分か、④地理的環境は適切か、などを考慮した。WOU以外に、Portland Community CollegeとChemeketa Community Collegeの実地調査が可能であった。前者は大胆に拡大路線をとっている都市型大規模短期大学、後者は地域密着型の中規模短期大学である。
- * 3 “Oregon Trail”：ミズーリ州西部のIndependenceからオレゴン州のコロンビア川に至る「オレゴン街道」。全長3,200 km。1840 - 1860年ごろの開拓者・植民地人が盛んに利用した。
- * 4 南北640kmにわたる美しい海岸はオレゴニアン自慢のひとつである。この海岸線は、自然保護のため1967年成立の法律により私有地化が禁じられている。
- * 5 WOU訪問の際に同大学の副学長Dr. John P. Minahanが我々にご恵贈下さったOREGON（州の公式写真家Ray Atkeson氏の最新の写真集）はオレゴンの多彩な自然を写した写真集であり、オレゴンの自然へのすぐれた入門書である。本学図書館の蔵書に加えさせて頂いた。
- * 6 WOUのリベラルアーツ・コア・カリキュラムの内容と単位数は次のとおりである。芸術（9単位）、保健・体育（4単位）、実験科学（12単位）文学（8単位）、哲学または宗教（3単位）、社会科学（12単位）、スピーチ（3単位）、ライティング（4単位）。
- * 7 正規のカリキュラム以外の活動は通常“Extra-curricular Activities”と呼ばれることが多いが、WOUの呼称の“Co-”はカリキュラムと同等の価値が置かれていることを感じさせる表現である。
- * 8 WOUの留学生の規模は現在22カ国からの100名程度（うち日本人が約60名）であるが、留学生に対する支援サービスは大変きめこまやかである。入学前の情報提供、入学、編入学の際の支援、宿舍やビザ申請の指導、留学生組織の援助など。また、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、アジア、アフリカなどの諸国の大学への留学機会の拡大や調整も大きな仕事である。さらに海外の大学との個別の提携関係の構築についても積極的である。日本の大学でWOUと何らかの友好提携関係をもっているのは埼玉大学、熊本学園大学、大手前短期大学等がある。

参考文献

- 1 . Western Oregon University Catalog 2002 - 2003 (WOU)
- 2 . Bringing the World to WOU and WOU to the World (WOU)
- 3 . Oregon's Public Universities (OUS)
- 4 . Portland - Oregon : 2002 Official Visitor Guide
- 5 . Salem Oregon : Salem Area Visitors Guide

URL

- 1 . <http://www.wou.edu/>
- 2 . <http://www.oregon.gov/>
- 3 . <http://www.ous.edu/>